二〇二一年度・学力考査問題【国語】

（中学第一回）

注意

一、試験時間は50分です。
二、答えはすべて解答用紙にはっきりと記入しなさい。
三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
四、問題は12ページで一・二・三の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろっていない場合にはすぐに手をあげなさい。
五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。また、特に指示のないかぎり、句読点なども一字に数えます。

一

線㋐～㋔のひらがなを漢字に直しなさい。

1　食後にかぜ薬をふくようする。
2　友だちの意見にさんせいする。
3　お墓参りに行ってお経をとなえる。
4　無事に合格したことをほうこくした。
5　春から家と学校を自転車でおうふくする。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

定年を過ぎても働いていた「廉太郎」は、妻「杏子」の余命を知ったことをきっかけに、長年働いていた会社を退職した。

開け放した窓からは、風はそよりとも入ってこない。その代わりに鳴きしきる蝉の声が耳につき、まだ午前七時台というのにじりじりと、気温が上がってゆくのを肌で感じる。

朝晩は窓を開け放てばどうにか過ごせるが、日中はやはりエアコンに頼らなければならないだろう。年寄り夫婦が熱中症により、家の中で死んでいたという記事が朝刊に載っている。

こめかみがじんわりと汗ばんできた。老眼鏡を外し、廉太郎は目頭を揉む。

1盆休みのようで、盆休みでない。この先休みという概念が自分にはないのだと思うと、不思議な気分だ。長年にわたり平日と休日に切り分けられた日常を、なんの疑いもなく過ごしてきたというのに。

その垣根がなくなった今は、なにをするのも自由のはず。世界ミステリ全集の読破とか、毎日八時間寝たいとか、釣り竿だけを持って一人旅とか、働き盛りには時間がなくて諦めてきた諸々が積み重なっている。

ところがこの歳になってみると、新聞を隅から隅まで読み通そうとしても目が疲れるし、もっと寝たいと思っても六時前には目が覚める。それに、今さら新しいことをするのは※1億劫だ。

若いころの願望は、そのときに実現しておかないと気力体力がついてこないのだと分かる。我が身を取り巻く環境も変わってしまった。自分のことは、後回しでいい。それよりも、杏子と過ごす時間を大切にしたい。

眼鏡をかけ直し、読みかけの投書欄に目を落とす。『夫よりも友達と』と題された、六十歳女性の文章である。

曰く、定年を迎えた夫との温泉旅行が苦痛以外のなにものでもない。a縦の物を横にもしない夫。荷造りすら人任せで、旅館に着けば「母さんお茶」、風呂に行くときは替えの下着を出してやってと、けっきょく世話を焼かされる。夫は百名湯を制覇するつもりでいるが、どうせなら温泉は気心の知れた女友達と行きたい。だって彼女たちは放っておいても、自分のことは自分でしてくれるのだから。

2最後まで読んで廉太郎は首を傾げた。もう一度読み返してみたが、やはり投稿者の意図が分からなかった。これのどこが苦痛だというの

だろう。

旅館にいれば、掃除も料理もその後片づけからも解放されるのだから、羽を伸ばすには充分ではないか。荷造りだの茶を淹れるだの、その程度のことはやってくれたっていいだろう。どのみち旅費は、夫の退職金から出ているに違いないのだ。

まったく女というものは、見せかけの平等ばかりを追い求めたがる。投げ捨てるように新聞を置き、縁側の向こうの庭を眺める。狭いがよく手入れされた庭だ。日が高くなる前にと、杏子が鍔広の帽子を被って草むしりをしている。三日で丈を高くする夏草との攻防は、きりがない。

「もう、そのくらいにしておけ」

網戸越しに声をかける。病身なのだからゆっくりしていればいいのに、杏子ときたらさっきからちょこまかと動き回ってばかりいる。

「おい、杏子」

「分かってますよ。でも、もう少しむしっておかないと」

「いいじゃないか。ちょっとくらい草が生えていても、べつに死ぬわけじゃない」

3 言ってしまってから、失言だったかと冷や汗をかいた。

杏子はふーっと息を吐き、腰を叩きながら立ち上がる。

「それもそうですね」

首に掛けたタオルで汗を拭い、笑顔を見せた。

むしった草をゴミ袋に詰めてから、玄関に回る。「あらあら、すごい汗」と呟きながら、洗面所に入って行った。

食べるものに制約はあれど、見たところ杏子は元気そうだ。抗がん剤治療がはじまってもこの調子なら、悲観するようなことはなにも起きないんじゃないか。案外このまま、三年五年と生き永らえそうな気がする。

この暑さが治まったら、やっぱり二人で旅行に行こうか。田舎の母が健在のころは年に一度は広島に帰っていたが、七回忌の法要を済ませてからは少しも遠出をしていない。指折り数えてみればもう十年。早いものだと驚いた。

※2「美智子は今日から秋田か」

洗面所に向かって声をかけるも、水を使っているらしく返事がない。美智子たちはお盆には夫の哲和くんの実家へ、正月には廉太郎の家へ顔を出すのが習いになっている。なんでも哲和くんの実家が豪雪地帯で、冬は移動が困難だからそういう取り決めになったらしい。

次女の恵子が盆休み返上で働いているのは毎年のことだし、この家には仏壇がないから、これといってなにもすることがなかった。

「お父さん、ちょっと来てください」

杏子が呼んでいる。やれやれ、虫でも出たか。廉太郎は座卓に手をつき、立ち上がった。

汗を拭き、着替えを済ませた杏子が洗濯機の横に立ってにこにこと笑っている。

どうせ草むしりの後に汚れ物が出るからと、洗濯機は回していなかった。洗濯籠の中には廉太郎が昨日脱ぎ捨てたポロシャツが、バスタオルなどと一緒になって入っている。

4 「洗濯のしかたを覚えましょうか」と、杏子が言った。

「洗濯？」

なにを言いだしたのかと訝しみ、廉太郎は眉を寄せる。

「そんなもの、洗濯機に入れてボタンを押すだけだろう」

「ええ。そうですけど、それだけでもないんです」

杏子は少し背伸びをし、洗濯機の上部に設置したラックに並ぶボトルを指差した。

「たとえば洗剤一つ取っても、これが弱アルカリ性、中性、蛍光剤入り。どう使い分けるかご存じですか？」

存じているわけがない。驚きの白さとか洗い上がりふんわりとか、洗濯洗剤のＣＭが流れてもろくに見ておらず、違いに着目したことなどない。メーカーが違うだけで、洗剤などどれも同じではないのか。

だが知らないと素直に答えるのは腹立たしい。廉太郎が黙っていると、杏子は勝手に説明をはじめた。

「弱アルカリ性が、一般的な洗濯物に使う洗剤です。それよりも洗浄力は落ちますが、中性洗剤は色柄ものに。ウールやシルクといった※3デリケートな素材もこちらです。蛍光剤入りは白いシャツや肌着など、白いものをより白く仕上げます。洗剤の種類によって分け洗いをすると、あまり失敗しませんよ」

廉太郎だって独身時代は一人暮らしをしたこともあるが、どれもまとめてコインランドリーで洗っていた。5結婚してからワイシャツが黄ばみづらくなったと思っていたのは、決して気のせいではなかったようだ。

「家庭で洗えるかどうか不安なものは、洗濯表示のタグを見てください。これは私がさっきまで着ていたサマーニットですけれど、ほら、桶に手を突っ込んでいる絵がついているでしょう。これは手洗いできますのマークです。桶にバッテンがついていると家では洗えませんから、気をつけてくださいね」

洗濯表示？　そんなものが衣類の一枚一枚についていることすら、廉太郎は知らなかった。

「ちなみにこの表示、数年前に国際規格に変わったので、それ以前に買った服には別のマークがついています」

「ややこしい！」

そんな細々したことを、唐突に覚えろと杏子は言う。狭い洗面所は蒸し暑く、廉太郎は次第に苛立ってきた。

「なんだ、仕事を辞めたとたんにこの扱いか」

もはや稼ぎがないのだから、家のことを手伝えというわけだ。昨日は※4長年の労をねぎらってくれたというのに、見事な手のひら返しである。

「すみません。私がお父さんより長生きできるなら、こんなことをする必要はなかったんですけど」

はっと息を呑む音が聞こえた。自分の呼吸だと気づくのに、しばらくかかった。

「お父さんが一人になってからのことを考えると、心配でたまらないんです」

6「いらん！」

反射的に叫んでいた。杏子はまだ生きているのに、三年五年と生きるかもしれないとさっき思ったばかりなのに、いなくなった後のことなど考えたくはなかった。

「だけど今のままじゃ、この家はすっかりゴミ屋敷になってしまいますよ」

「なればいいじゃないか。そんな心配をするくらいなら、自分の体を治せ！」

「治らないんですってば。何度言えば分かるんですか！」

杏子がついに語調を荒らげた。あまりにも珍しい事態に、廉太郎はC虚を突かれて言葉をなくす。細い手が、ぎゅっとスカートを握りしめた。

「私がいなくなったら、あなたの健康を守れるのはあなただけなんです。娘たちに迷惑はかけられないでしょう？」

涙の幕を張った瞳がきらきらと輝いている。杏子が美しく見えるときは、なぜか胸が引き絞られるように苦しい。

廉太郎だって無論、娘たちの世話になるつもりはなかった。彼女らは自分の人生で手一杯なのだし、同居を願っても気詰まりなだけ。この家で夫婦二人、老いてゆけばいいと思っていた。

けれども二人はやがて、一人になるのだ。

遺されるのが杏子なら、さほど問題はなかったのかもしれない。でも廉太郎は――。

荒れ放題の家の中、ゴミに埋もれて眠る老いさらばえた男の姿が脳裏に浮かぶ。気温は上昇し続けているのに、腹の底がぞわりと震えた。

俺はいったい、いくつまで生きるんだ？

杏子を失うかもしれないという衝撃が強すぎて、その後も続く己の人生にまで、頭が回っていなかった。仕事を辞めて親しい友人もおらず、毎日出来合いのものを食べ、いつか迎えが来るその日までゆっくりと衰えてゆく。

頭はいつまではっきりしているのだろうか。体はどこまで動くのか。ぽっくり逝くのが理想ではあるが、だとしたら誰が見つけてくれるのか。

そういった不安が波のごとく押し寄せてきて、廉太郎の表情を曇らせる。

すぐ近くに、杏子の訴えるような瞳があった。

「お願いします。もうあまり、時間がないんです」

余命一年と宣告されてから、すでに三カ月が経っていた。まさか医師の言うとおりきっちり一年なわけはなく、それより短い可能性だってある。杏子のタイムリミットが迫っているのは、たしかだった。

廉太郎は左の肘を掻きむしる。猛烈な痒みは後からきた。蚊に食われていた。

「あら、すみません。私が出入りしたときについてきたんですね」

あまり掻いちゃいけませんと手を取られる。肘の下がずいぶん腫れている。

「不思議ですね。私、少しも刺されないんですよ。毎年この時期は庭仕事をしていると、ヤブ蚊が多くて難儀したのに」

半袖のブラウスから突き出た杏子の腕には、点滴の痕が残っていた。抗がん剤を投与したときのものが、なかなか消えない。

「吸わなくても分かるんですね。この血はまずいって」

左肘に添えられた杏子の手を、廉太郎は真上から握り込んだ。

7この女の「お願い」は、聞かないと必ず後悔することになる。先のことは分からなくても、それだけはたしかだった。

（坂井希久子『妻の終活』祥伝社より）

※1　億劫…めんどうである。
※2　美智子…廉太郎と杏子の長女。
※3　デリケートな…扱いが難しい。
※4　長年の労をねぎらってくれた…長年働いてきたことに感謝してくれた。

問一　――線a「縦の物を横にもしない」・b「訝しみ」・c「虚を突かれて」とありますが、文中における意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

a　縦の物を横にもしない

ア　こだわりが強く人に頼ることができない
イ　他人の言うことを受け入れられない
ウ　素直に自分のことを表現できない
エ　めんどうくさがって何もしない

b　訝しみ

ア　期待をこめて
イ　興味を抱いて
ウ　不思議に思って
エ　悪意を感じて

c　虚を突かれて

ア　事態に納得できなくて
イ　想定外で動揺して
ウ　絶望的になって
エ　うそがばれて

問二　――線1「盆休みのようで、盆休みでない」とありますが、ここでの「廉太郎」について述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　急に暇になったことをごまかすように、やってみたいことを次々と考えてみたが、時間が足りないこともあり、とりあえず杏子の看病に専念しようとしている。
イ　杏子のために仕事を辞めて意気込んでいたものの、何をしたらいいか、良い考えが浮かんでこなかったため、まずは自分にできることからやってみようとしている。
ウ　退職してできた区切りのない毎日を持て余して、あれこれと考えるところがあったものの、とにかくいまは杏子のことを最優先にしたいと考えている。
エ　やっと持つことができた自由な時間を有意義に使おうと思いをめぐらしたが、やはり残り時間の少ない杏子の人生を、もう一度輝かせてあげたいと思っている。

問三　――線2「最後まで読んで～首を傾げた」・3「言ってしまってから～冷や汗をかいた」とありますが、これらの表現から「廉太郎」についてどのようなことが読み取れますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　落ち着いてじっくり物事を考えることができず、まったく妻のことを思いやるところがない。

イ　自分に対する他人の気づかいをいっこうに気に留めないで、さらに自分の言動についても反省するところがない。

ウ　どんな深刻な状況であっても、表向きは明るくふるまってうまくやりすごそうとしているところがある。

エ　後で気づくこともあるが、思いこみだけで判断したり、その場の気分で発言するなど、軽率なところがある。

問四　――線4「洗濯のしかたを覚えましょうか」とありますが、この時の「杏子」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　仕事を辞めて時間を持て余している夫に、今まで自分がしてきたことを見せて、仕事の代わりにやるべきことがまだあることを伝えようとしている。

イ　自分がいなくなった後のことを考えて、時間の許すかぎり夫が一人で暮らしていくために必要な生活の方法を教えようとしている。

ウ　自分のために仕事まで辞めた妻思いの夫のために、長女夫婦や次女らと円満に過ごすための方法をすべて伝えようとしている。

エ　毎日の家事に集中させることで、すべてを投げ打っても治らない自分の病に向き合わなければならない夫のつらさを、軽くしようとしている。

問五　――線5「結婚してから～気のせいではなかったようだ」とありますが、この時の「廉太郎」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　杏子の言葉で自分でも何となく感じていたことに納得がいき、彼女が細やかな心配りでずっと自分を支えてくれていたことに改めて気づかされている。

イ　のんびり屋だと思っていた杏子の意外な一面を発見したことで、いままで家庭を守ってきてくれた彼女にずっと冷たく接していたことを反省している。

ウ　家の中で感じてきた居心地の悪さの原因が、杏子の目立たない思いやりであったことに気づき、自分にはもう気をつかわないでほしいと考えている。

エ　洗濯のような取るに足りないことまで気が回るほど、杏子は素晴らしい人物であったことに気づき、彼女を失う運命を受け入れるしかないことを残念に思っている。

問六　――線6「『いらん！』反射的に叫んでいた」とありますが、この時の「廉太郎」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　仕事を辞めたとたんに家事をするように要求されて、これまで一家を支えてきたという思いがふみにじられたことに、がまんできなくなっている。

イ　杏子の話は自分にとって必要なことだと思いつつも、その内容があまりにも細かすぎて、自分の性格には合わないと感じてうんざりしている。

ウ　杏子が万が一のことを考えて教えていたことを、自分は余計なお世話だと決めつけたことを恥ずかしく思い、急に怒るふりをしてごまかそうとしている。

エ　杏子がいなくなるという現実を彼女自身から突き付けられ、その現実に直面していくことに耐えきれなくなり、目をそらそうとしている。

問七　――線7「この女の〜それだけはたしかだった」について。

(1)　これまでの「廉太郎」と「杏子」について述べたものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　口うるさく妻を注意することが多い廉太郎に対して、杏子は不満を隠し、夫に気づかれないように理想的な妻を演じていた。

イ　妻に対し強気な言動をしながらも、一人では暮らしていけそうにない廉太郎に対して、杏子はそんな夫を支えていこうとしていた。

ウ　必死に妻の病気を治そうとする廉太郎に対して、杏子は夫の世話を焼くことを通して、病という現実から逃げようとしていた。

エ　妻の本心にまったく気づかないでいる廉太郎に対して、杏子は失望するとともに、そんな夫との生活に嫌気がさしていた。

(2)　この時の「廉太郎」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　珍しくわがままを言う杏子に対して、それをかなえてやるのが夫である自分のつとめだと思い、気が進まないものの杏子の希望にそおうとしている。

イ　杏子の強い口調から、彼女の死がさけられないものだと覚悟して、病気を治すことよりも今まで二人で出来なかったことをしていきたいと考えている。

ウ　死を覚悟して、自分に強く訴えてくる杏子の気持ちを受け止めて、これまでの態度を改めて、杏子と向き合わなければならないと実感している。

エ　必死になっている杏子の態度は病気のせいだからと思い、これまで以上に杏子を救う手段を見つけてやらなければいけないと決心している。

三　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1 植物の成長を測る方法に「草高」と「草丈」があります。この二つの言葉は、よく似ていますが、意味するところは違います。草高は「根元からの植物の高さ」を言います。一方、草丈は「根元からの植物の長さ」を言います。

何だ、同じじゃないかと思うかもしれませんが、そうではありません。

確かに上に伸びる植物にとっては、草高と草丈は同じです。しかし、踏まれながら横に伸びている雑草はどうでしょうか。横に伸びてゆくので、草丈は大きくなっても、上に伸びることはないので、草高はゼロのままです。

アサガオが二階まで伸びましたと喜んでみたり、もうこんなに伸びたからそろそろ草を刈ろうかと言ってみたり、人間は、植物の成長を「高さ」で測りたがります。それが一番、簡単な方法だからです。

しかし、まっすぐ上に伸びることだけが成長ではありません。

身の回りの雑草を見てみてください。

みんな曲がったり、傾いたりしながら成長しています。まっすぐに伸びている雑草は一つもないのです。

横に伸びたり、斜めに伸びたり、何度も曲がったり、雑草の伸び方はそれぞれです。そんな複雑な成長を測ることは大変です。そのため人間は、植物を「高さ」で評価します。人間の持っているものさしは、まっすぐなものさしです。そのため、まっすぐな高さで測ることしかできないのです。

「高さで評価される」ということは、皆さんにとっては成績や偏差値という言葉が当てはまるかもしれません。「高さ」という尺度は大切な尺度です。「高さ」で測ることはダメなことではありません。成績は悪いより良いほうがいいに決まっていますし、成績が良い人はほめられるべきです。

しかし、それだけのことです。それはたった一本のものさしで測ったたった一つの尺度に過ぎません。大切なことは、2 高さで測れることは、成長を測るたった一つの尺度でしかないと知ることです。雑草の成長がそうであるように、「何が大切か？」を考えれば、「高さ」がすべてではありません。

まっすぐなものさしで、すべての成長を測ることはできません。そしておそらく、本当に大切なことは、ものさしでは測ることのできないものなのです。

人々が行き交う歩道の隙間に、雑草が生えているのを見かけます。あるものは茎を横に伸ばしていたり、あるものは大きくなることなく、身を縮ませています。そんな雑草を見て、何だかかわいそうと思ってしまうかもしれません。3 地べたで暮らす雑草たちを惨めに思ってしまうかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。

確かに他の植物たちが、天に向かって高々と伸びようとしているのと比べると、踏まれている雑草は成長していないように見えます。他の植物が高く高くと縦に伸びているのに、踏まれる場所の雑草は本当

に縦に伸びることをあきらめてしまって良いのでしょうか。

植物が上に向かって伸びようとするのには、理由があります。※1先にも説明しましたが、植物が成長をするためには、光を浴びて光合成をしなければなりません。光を浴びるためには、他の植物よりも高い位置に葉をつけなければなりません。もし、他の植物よりも低ければ、他の植物の陰で光合成をしなければならなくなります。有利に光合成をするためには、他の植物よりも少しでも高く伸びなければならないのです。

光を求める植物たちにとって、自分がどれだけ伸びたのかという絶対的な高さは、じつは重要ではありません。光を浴びるために大切なのは、他の植物よりも、少しでも高く伸びるという相対的な高さです。そして、他の植物よりも少しでも上に葉を広げようと上へ上へと伸びるのです。

植物たちはこうして激しい競争を繰り広げています。

踏まれる場所の雑草は、本当に[4]この競争に参加しなくても大丈夫なのでしょうか。

もちろん、大丈夫です。

よく踏まれる場所には、上へ上へと伸びようとする植物は生えることができません。上へ伸びても踏まれて折れてしまうからです。

そのため、草高がゼロの横に伸びる雑草も、小さな小さな雑草も、広げた葉っぱいっぱいに太陽の光を存分に浴びています。こんなに光を独占している植物は、他の場所ではなかなか見られません。

踏まれる場所に生える代表的な雑草に、[5]オオバコがあります。

オオバコは漢字では、「大葉子」といいます。その名のとおり、大きな葉を持っているのが特徴です。その葉は見た目にはとても柔らかです。しかし、その葉の中には丈夫な筋がしっかりと通っています。だからオオバコの葉は、踏みにじられてもなかなかちぎれないのです。柔らかいだけでは簡単にちぎれてしまいます。柔らかさの中に固さがあるから、その柔らかな葉は丈夫なのです。

また、葉とは逆に、茎の外側は固い皮で覆われていて、茎の内部は柔らかいスポンジ状の髄が詰まっています。固いだけでは強い力がかかると耐えきれずに折れてしまいます。柔らかいだけではちぎれてしまいます。固さの中に柔らかさがあるから、その頑強な茎はしなやかで折れにくいのです。

「柔よく剛を制す」という言葉があります。この言葉は、剛（固いもの）よりも柔（しなやかなもの）が強いと解釈されることが多いですが、本当はそうではないようです。本来の意味は、「柔も剛もそれぞれの強さがあり、両方を併せ持つことが大切である」という意味だそうです。

踏まれるところに生える雑草の多くは、固さと柔らかさを併せ持った構造をしています。固いだけでも柔らかいだけでも踏みつけに耐えることはできません。固さと同時にしなやかな柔らかさを持ち、柔らかさの中にしっかりとした固さを持っている。それが踏まれて生きる雑草の強さの秘密なのです。

しかし、オオバコのすごいところは、それだけではありません。

踏まれる場所に生える雑草にとって、踏まれることはつらいことな

のでしょうか？

オオバコの例を見てみることにしましょう。

植物は種子をタンポポのように綿毛で飛ばしたり、ひっつき虫と呼ばれるオナモミやセンダングサのように他の動物にくっつけたりして、広い範囲に散布します。

オオバコはどうでしょうか。

オオバコの種子は水に濡れるとゼリー状の粘着液を出します。そして、靴や動物の足にくっつきやすくするのです。

こうして、オオバコの種子は人や動物の足によって運ばれていきます。車に踏まれれば車のタイヤにくっついて運ばれていきます。

こうなると、オオバコにとって踏まれることは、耐えることでも、克服すべきことでもありません。

踏まれなければ困るほどまでに、踏まれることを利用しているのです。道ばたのオオバコたちは、どれも、みんな踏んでもらいたいと願っているはずです。まさに逆境をプラスに変えているのです。

逆境をプラスに変えるというと、※2ポジティブシンキングのように、悪いことを良いこととして考えることかと捉えられがちです。

確かにマイナスのことをどのようにプラスに捉えるかは大切です。

しかし、単なる※3レトリックではなく、実際に雑草はより合理的に、より具体的に、マイナスを確かなプラスに変えているのです。

踏まれた雑草は立ち上がりません。

踏まれた雑草は上にも伸びません。

そもそも、立ち上がらなければならないのでしょうか。

そもそも、上に伸びなければならないのでしょうか。

踏まれて生きる雑草を見ていると、そんなことを教えられます。

上に伸びることしか知らなければ、踏まれたときにポキンと折れてしまいます。

踏まれたままでもいいのです。

伸びる方向は自由です。横に伸びたっていいのです。

そして、本当は伸びなくたっていいのです。

上に伸びることができなくなったとき、横にも伸びることができなくなったとき、雑草はどんな成長をすると思いますか。

そうです。

雑草は下に伸びます。

根を伸ばすのです。

根を伸ばしても、見た目には成長していないように見えるかもしれません。しかし、見えないところで根が成長していきます。

根は植物を支え、水や養分を吸収する大切なものです。

人間も、「根性」や「心根」という言葉を使います。

本当は、根っこが大事だと知っているのです。

（稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる　生き物をめぐる個性の秘密』筑摩書房より）

※1　先にも…本文より前に、植物は光のエネルギーを用いて、水と二酸化炭素から生きるために必要なエネルギー物質を合成（光合成）することについて書かれていることを指す。
※2　ポジティブシンキング…積極的で前向きな考え方のこと。
※3　レトリック…特別な効果をねらった言葉の表現方法のこと。

問一　――線1「植物の成長を〜があります」とありますが、「草丈」についての説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　一般的になじみはないが、植物の成長を測る重要な基準の一つとなっている。
イ　一見してわかりにくい植物の成長を、簡単に測るための基準の一つとなっている。
ウ　植物のあらゆる種類の成長を、誰もが公平に測ることができるたった一つの基準になっている。
エ　植物の複雑な成長を測ることができる、たった一つの基準になっている。

問二　――線2「高さで測れる〜と知ることです」とありますが、なぜ知る必要があるのですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　一つの基準では様々な特徴を正確に測ることがむずかしく、他と比べて価値を判断することができないから。
イ　一つの基準だけで複雑な成長をとらえていると、上に伸びる植物の優れている点を見落としてしまうから。
ウ　一つの基準がすべてだと考えてしまうと、そのものさしでは測れない価値に気付かないままになってしまうから。
エ　一つの基準だけでは、植物の成長をさまたげる原因がどのようなものであるのか解明することができないから。

問三　――線3「地べたで暮らす雑草たち」とありますが、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　他の植物との競争に負けたため、横に大きな葉を広げて生きのびている。
イ　何度踏まれても立ち上がる強さを持つために、地面の養分を独占している。
ウ　広い範囲に種子を運ぶことができるので、他の植物よりも優れている。
エ　上に伸びようとする競争とは違う方法で、生きようとしている。

問四　――線4「この競争」とありますが、植物が何のために、どのようにすることですか。わかりやすく説明しなさい。

問五　――線5「オオバコ」について。

(1)「オオバコがあります」の特徴として適当なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア　踏まれてもいいように細部まで強固な構造をしている。
イ　踏まれることが自分の仲間を増やすことにつながる。

ウ　大きな葉で他の植物よりも太陽の光を独占している。
エ　上に伸びる植物よりも簡単に成長できる仕組みがある。
オ　自由に伸び成長するために踏まれる場所を選んでいる。
カ　丈夫でしなやかな構造をしているため折れにくい。

(2)　**オオバコの種子の散布に対する筆者の評価が簡潔（かんけつ）に示されている部分を文中から十二字以内で探し、初めの三文字を答えなさい。**

問六　本文の内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　どんな生物でも目に見える成長を気にしがちだが、その成長は意味がない。
イ　重要な成長は周囲からは見えないので、自分自身で基準を考えるべきだ。
ウ　植物に限らず、成長は必ずしも一つの基準で判断できるものではない。
エ　成長の仕方にとらわれず、個人の生き方を尊重することが大切だ。

【国語】

解答用紙（中学第一回）

受験番号				

氏名

得点

一

㋐ ふくよう

㋑ さんせい

㋒ となえる

㋓ ほうこく

㋔ おうふく

二

問一

a

b

c

問二

問三

問四

問五

問六

問七

(1)

(2)

三

問一

問二

問三

問四

問五

(1)

・

(2)

問六